

品目別レポート（なし）

■品目説明

なしの輸出品種は、二十世紀などのいわゆる「青なし」が主体であるが、最近では、豊水、新興、新高などの「赤なし」も輸出されている。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出力強化戦略（平成 28 年 5 月）」では、「出荷時期の異なる多数の品種の組合せによるリレー出荷方式や長期保存技術確立により、販売の長期化・輸出拡大を目指す」とうたい、現状・課題として「出荷時期の異なる品種によるリレー出荷体制の構築や長期保存体制の確立により、販売期間の長期化をめざす輸出相手国・地域ごとに異なる輸出環境課題があり、各々の残留農薬基準等をクリアすることが課題」と指摘している。また、今後の取り組みとしては、「出荷期間の異なる品種や産地を組み合わせによる輸出期間の長期化」「最新保存技術・輸送資材を活用した長期保存体制の確立」「海外市場を獲得するためのプロモーション活動を強化」「高まるニーズに対応した生産体制の整備」「輸出を円滑に進めるための環境を整備」を行うとしている。

19 年産日本なしの国内収穫量は 20 万 9,700 トン（前年比 9.6%減）、出荷量は 19 万 3,900 トンであった。また、全国の結果樹面積は 1 万 1,100ha で、前年に比べ 300ha（2.5%）減少した。これは、高齢化による労力不足に伴う廃園があったこと等によるとしている。また、都道府県別の収穫量割合は、茨城県が 10%、千葉県及び栃木県がそれぞれ 9%、福島県が 8%、鳥取県が 7%、長野県が 6%となっており、この 6 県で全国の約 5 割を占めている（農林水産省「作況調査（果樹）第 1 報」）。

なし／マルメロの小売市場規模（2019 年）は全世界で 2,183 万 2,000 トンとされており、地域別にみると、アジア大洋州 1,705 万 2,000 トン、西ヨーロッパ 152 万 8,000 トン、中東・アフリカ 126 万 8,000 トン、東ヨーロッパ 104 万 5,000 トン、ラテンアメリカ 47 万 3,000 トン、北米 40 万 4,000 トン、オーストラレーシア（注）6 万 2,000 トンであった（ユーロモニター・インターナショナル調べ）。

注：オーストラレーシア：オーストラリア大陸・ニュージーランド北島・ニュージーランド南島・ニューギニア島およびその近海の諸島（インドネシアの領域を含む）を指す地域区分。

■貿易概況

19 年のなしの輸出は金額ベースで前年比 19.3%減の 720 万ドルであった（表 1）。数量ベースでは同 27.0%減の 1,376 トンと、金額・数量ともに前年から減少した。

▼表1：日本のなし輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	4,746,340	1,136	5,370,577	1,182	4,058,782	788	△ 24.4	△ 33.3
台湾	3,077,833	493	2,359,845	426	2,110,464	358	△ 10.6	△ 16.0
ベトナム	541,336	124	736,475	176	493,393	104	△ 33.0	△ 40.9
タイ	136,019	29	144,847	29	200,261	49	38.3	69.0
米国	114,197	29	108,122	27	114,418	26	5.8	△ 3.7
全世界	8,886,599	1,865	8,936,897	1,884	7,207,837	1,376	△ 19.3	△ 27.0

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

輸出相手国・地域で見ると1位は香港で、金額ベースで24.4%減の405万ドル、数量ベースでは同33.3%減の788トン、2位は台湾で、金額ベースは同10.6%減の211万ドル、数量ベースは同16.0%減の358トンとなり、これら2地域で全体に対するシェアとして金額ベースで85.5%、数量ベースで83.2%を占めた。なお、3位はベトナムで、金額ベースは49万ドル、数量ベースは104トンであった。日本産なしについては、07年にベトナムの植物検疫法が制定されて以降ベトナム向けに輸出することができなくなっていたが、17年1月16日付で解禁された。輸出植物検疫条件は、生産園地・選果こん包施設等の登録、病害虫に対する検疫措置(3つの措置の中から産地が1つを選んで実施)、輸出向けの徹底選果、輸出検査等を行うことであり、登録された選果こん包施設については植物防疫所が公開している。

■海外事情

●香港

▼表2：香港のなし輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	23,739,448	54,994	29,286,260	71,813	26,399,391	61,859	△ 9.9	△ 13.9
日本	4,346,549	987	5,988,498	1,223	4,938,196	756	△ 17.5	△ 38.2
南アフリカ	6,925,779	5,577	3,448,415	3,056	4,381,719	4,431	27.1	45.0
ベルギー	2,338,811	1,927	1,486,521	1,172	3,577,229	2,773	140.6	136.6
オランダ	1,482,809	1,150	2,330,893	1,819	2,745,472	2,045	17.8	12.4
全世界	44,617,097	68,407	47,356,543	82,003	48,549,167	75,740	2.5	△ 7.6

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

19年のなしの輸入をみると、金額は前年比2.5%増の4,854万ドル、数量は同7.6%減の7万5,740トンであった(表2)。

主要輸入相手国の動向をみると、1位の中国と2位の日本の輸入額合計は全体の64.5%を占め、数量ベースでは同82.6%を占めた。1位の中国は金額が2,639万ドル（前年比9.9%減）、数量が6万1,859トン（同13.9%減）、2位の日本は金額が493万ドル（同17.5%減）、数量が756トン（同38.2%減）といずれも減少。一方で3位の南アフリカ共和国は金額が438万ドル（同27.1%増）、数量が2,773トン（同136.6%増）となった。なお、4位のベルギー、5位のオランダといずれも前年比で増加した。

19年におけるなしの1kg当たりの輸入単価は、引き続き日本産が6.53ドルと群を抜いて高く、南アフリカ共和国産が0.98ドル、オランダ産が1.34ドル、ベルギー産が1.29ドル、中国産が0.42ドルとなっている。

香港に輸入されている日本産なしは、主に幸水、豊水、二十世紀などの丸い形のなし種であるが、中国産豊水もあり、日本産と同種で競合する。南アフリカ共和国、ベルギー、米国からは主に細長い形の西洋なし種が輸入されている。

円安などの影響により、日本産なしの輸入単価が減少し、消費者も買いやすくなった結果、15年は日本産のニーズが増えたとみられた。ただその後、輸入単価は上昇し、中国産の輸入単価の10倍超となっても輸入ニーズはある。日本産に対する堅調な需要を反映しているとみられる。日本産なしのニーズは主に贈答用であり、需要が高まる季節は中秋節である。日本産なしを同時期に合わせてうまく出荷できると効果的だ。

日本産梨の主力である豊水や二十世紀の出荷が終わった時期にあたる2019年11月～2020年1月にかけてジェットロが現地市場価格調査をしたところ、富裕層向けの現地系スーパーマーケットでは、韓国産の「豊水」が2個で48香港ドル（約688円）、日本産「王秋」が1個78香港ドル（約1,119円）、ローワーミドル向け現地系店舗で中国産「世紀梨」が3個14.9香港ドル（約213円）、日本産「新高梨（新潟）」が2個98香港ドル（約1,406円）であった。

●台湾

19年のなしの輸入は、金額ベースで2,276万ドル（前年比6.5%減）、数量ベースで12,514トン（同2.1%増）であった（表3）。なかでも大宗を占めるのは韓国で、19年の金額ベースで75.4%、数量ベースで76.8%を占めている。これは02年1月のWTO加盟後も関税割当制度が維持され割当数量が拡大される一方、国別数量割当が撤廃され、1kg当たりの輸入単価が日本産（19年4.11ドル）の半分以下の韓国産（同1.78ドル）に輸入が集中したためである。従価税の18%が適用される関税割当数量は04年以降直近まで9,800トンである。ちなみに、関税割当外の輸入は1kg当たり49台湾ドルの重量税が適用となる。

▼表3：台湾のなし輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	17,299,401	9,275	17,669,536	9,110	17,180,023	9,614	△ 2.8	5.5
ニュージーランド	2,147,736	1,221	3,528,941	1,893	2,829,441	1,460	△ 19.8	△ 22.9
日本	2,293,607	498	1,973,799	389	1,443,143	351	△ 26.9	△ 9.8
米国	2,226,139	1,593	1,183,025	871	1,195,404	1,005	1.0	15.4
チリ	61,960	26			113,543	83	-	-
全世界	24,028,843	12,614	24,355,300	12,262	22,761,554	12,514	△ 6.5	2.1

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

台湾がWTOに加盟した02年以降も、国内でなしの生産は年間10数万トン水準で推移し、10年に生産量のピーク(17万4,858トン)を記録した。その後は減少に転じ、19年には9万1,031トンとなった(行政院農業委員会「動態查詢」)。品種は台湾種の横山梨と、日本から穂木を輸入して接木栽培する豊水、幸水、新高などの品種がある。国産なしのシーズンは5～9月である一方、韓国や日本からの輸入ものは9月以降となるので、市場への出回り時期のすみ分けができています。

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。